

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2010 年 11 月 30 日

派遣者氏名（専門分野）	藤森衣子 (共生文明論)
-------------	-----------------------

下記のとおり報告します。
記

研究テーマ	幕末以降の神戸の歴史とその発展をアメリカ側の資料から検証する
-------	--------------------------------

派遣期間

2010 年 9 月 2 日 ～ 2010 年 9 月 13 日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問 研究 機関	米国	ワシントン	アメリカ議会図書館(LC)	なし
	米国	ワシントン	アメリカ国立公文書館 (NARA)	なし

派遣先で実施した研究内容

神戸には開港当初より居留地が置かれたが（アメリカ領事館の開設が最も早い）、アメリカ側の資料によって神戸について調査する場合、そこで発行された新聞・居留地の人々と日本人との間に交わされた書簡や、アメリカ領事館作成の「領事報告」などを入手することができればと考えていた。

LC では、1891 年 12 月 2 日付で発行された Robert Young 著「The Terrible Earthquake in Japan」を閲覧できた。内容は 1891 年 10 月 28 日に起こった濃尾大地震の被害状況と、当時の神戸や大阪の居留地や外国人住居や工場の被害の様子などが記されている。Robert Young については、英字新聞「Kobe Chronicle」を、1891 年 10 月 2 日に、神戸の地で創刊した人物である。日本の国会図書館や神戸公文書館などで、英字新聞「Kobe Chronicle」の 1897 年以降のものがマイクロフィルムなどで閲覧できるが、それ以前については残っていない。創刊間もない頃に起こった大地震の記事が Robert Young 自身の手によって書かれ、当時の日本の新聞記事やその他の情報を編集した資料である「The Terrible Earthquake in Japan」を今回目にする事ができた。

創刊当初の「Kobe Chronicle」については、James Madison Memorial Bldg.(Madison 館)の LB113 室に存在しているということで、申請をした。ONLINE CATALOG には、確かに存在するが、LB113 室の昔ながらの手書きの図書カードでは、最も古いものが 1904 年版で、それ以前のはカードの箱にはなかった。以前蔵書に関する検査が入った時、議会図書館全体の 17%の資料が行方不明になっていて、部門によってはそれが 20%以上であったという話を館員の方からお聞きした。創刊当初の「Kobe Chronicle」については、世界ではここ議会図書館のみ存在するようで、それが見つからないことが大変残念であった。

NARA では、神戸とアメリカとの実質的な関係を知る資料の一つである「領事報告書」が保管されている。膨大な資料がまだまだ未整理のまま保管され、申請して資料を見てみないとどのようなものが入っているのが、わからない場合が多い。今回は、NARA での調査時間が短かったこともあり、日本で ARC を使って検索していった 1908 年 12 月 7 日付神戸領事 John.H.Snodgrass の報告について、まず資料申請を行い閲覧・コピー・写真撮影を行った。内容は、貿易品を中心とする産業の様子・労働者の賃金や労働時間・製造部門別の経営実態調査・輸出や輸入の額や近年の変遷・関税率などが克明に記されていた。1908 年の実物の「領事報告書」を手に取り、擦れた部分もあるタイプライターの文字を追う事ができたことだけでも大変意義深いものであった。裏面に続く



アメリカ議会図書館 Madison 館



アメリカ国立公文書館 (Archives II)

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

OVCプログラム「横断的研究視察」では、「同行者」との形で参加する機会を得ることができた。今回の「横断的研究視察」については、焦点を絞った明確な調査目的を持った学生の方々とは違っていたが、次の点について調査・収集を目的とした。

- ① アメリカ議会図書館にある日露戦争後の臨時測図部による旅順砲台実測図の調査方法(小林茂教授による実習)
 - ② アメリカ議会図書館とアメリカ国立公文書館 (Archives II) の調査・収集方法
 - ③ 幕末以降の神戸の歴史やその発展をアメリカ側の資料より検証
- ① 9月8日、9日両日の午後、Madison 館地下1階にある Map Room で小林茂教授のもと実習が行われた。日本人測量技術者による旅順要塞の砲台に関する手描き原図を調査し、書誌データとり(カード作成)、カメラ・マンフロット・三脚・水準器・カラー盤・巻尺・PC を使っての撮影を行った。
- ② 別紙 OVC プログラム派遣先機関等利用マニュアルに記載
- ③ 世界中に展開するアメリカ領事館が作成した「領事報告」から、1908年当時の神戸を中心とする地域に分布していた企業や、労働者の実態が浮かび上がってきた。今後は「領事報告」の統計データや、産業別の就労者の実態を考察することから、明治末期の神戸の歴史を検証する手立てのひとつとしていきたいと考えている。

派遣後の研究発表の予定